

マリンスキー・オペラ

ワレリー・ゲルギエフが贈る、マリンスキー歌劇場による
壮大なるオール・チャイコフスキー・プログラム!



ロシア文化フェスティバル
2019 IN JAPAN

2019年春
発売!

ワレリー・ゲルギエフ (芸術総監督、首席指揮者)

Valery Gergiev, Artistic and General Director

マリンスキー歌劇場芸術総監督、首席指揮者、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者、チャイコフスキー国際コンクール組織委員会委員長、PMF芸術監督、

「白夜の星」音楽祭、ロッテルダム・ゲルギエフ音楽祭(オランダ)、モスクワ復元祭音楽祭などの音楽祭を創設し、芸術監督、音楽監督として活躍。

マリンスキー劇場において数多くの世界的な名歌手を育成し、音楽界に送り出してきた。その采配のもとで同劇場はオペラおよびバレエのレパートリーを大きく広げ、現在では18世紀から20世紀までのクラシックの傑作をはじめ、現代作曲家の作品にいたるまで、幅広いレパートリーを誇っている。

05年には、火災に遭ったマリンスキー劇場アトリ兼食堂の跡地に新しいコンサートホールが完成。2013年にはマリンスキー劇場新館(マリンスキー2)がオープンした。これによりマリンスキー劇場は、ロシア国内では初となる、劇場とコンサートホールを併せ持つ複合施設へと生まれ変わったのである。

ゲルギエフは07年~15年までロンドン交響楽団の首席指揮者を務めたほか、近年は、メトロポリタン・オペラ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ニューヨーク・フィルハーモニック、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・スカラ座管弦楽団などと共演している。

「スペードの女王」

2019年 11月30日(土) 12月1日(日) 東京文化会館

「マゼツパ」(コンサート形式)

12月2日(月) サントリーホール



舞台写真: オペラ「スペードの女王」より

主催: 朝日新聞社/ ジャパン・アーツ 協力: マリンスキー・オペラ友の会

ジャパン・アーツぴあ 03-5774-3040 www.japanarts.co.jp

2019年12月
来日開催

マリンスキー歌劇場管弦楽団

ワレリー・ゲルギエフが贈る、マリンスキー歌劇場による
壮大なるオール・チャイコフスキー・プログラム!



ロシア文化フェスティバル
2019 IN JAPAN

アレクサンドル・
ブズロフ
(チェロ)



© Stefano Bottesi

五嶋 龍
(ヴァイオリン)



© Ayako Yamamoto / UMLLC

セルゲイ・
パシヤン
(ピアノ)



2019年春
発売!



© Valentin Berenovsky/Mariinsky Theatre

マリンスキー歌劇場管弦楽団
The Mariinsky Orchestra

マリンスキー歌劇場管弦楽団は、18世紀のピョートル大帝在位中に創設され、以来ずっと、サンクトペテルブルクの地で、世界に名だたるマリンスキー劇場を拠点として活動している。これまでに数多くの世界的音楽家がこのオーケストラを指揮しており、パンス・フォン・ビューロー、アルトゥール・ニキシュ、ウィレム・メンゲルベルク、オットー・クレンペラー、ブルーノ・ワルター、エーリヒ・クライバー、ベルリオーズ、ワーグナー、マーラー、シェーンベルクなど、輝々たる顔ぶれが並んでいる。

めくるめくような、壮大なるオール・チャイコフスキー・プログラムである。

これまでの国内における演奏史において、これほど短期間に集中してチャイコフスキーの交響曲6曲、協奏曲5曲、そしてオペラ2演目が演奏された例があっただろうか？ ロシア音楽が大好きな人にとっては、豪華な皿の数々が、目の前に並べられたようなものではないか。

オペラ「スペードの女王」「マゼッパ」はどちらもロシアの詩聖プーシキンの原作による円熟期の傑作であり、交響曲に匹敵するドラマティックな迫力を持っている。ピアノ協奏曲第2番は力強さと気品において、有名な第1番を凌駕するといっても過言ではない。ピアノ協奏曲第3番は当初は交響曲「人生」として着想された、隠れた名作だ。日頃はなかなか接することのない、こうした重要な作品群をまとめて聴くことで、今までにないスケールで作曲家の全体像を体験できるのは、何と素晴らしいことだろう。

一部が発表されている協奏曲のソリストでは、人気ヴァイオリニスト五嶋龍とともに、知る人ぞ知るピアノ界の実力者、セルゲイ・パシヤンの名前が挙がっていることにも注目したい。

ゲルギエフの解釈も深化している。たとえば、得意中の得意とする交

響曲第5番について、最近のインタビューではこう語ってくれた。

「この曲に込められているのは“人生の厚み”です。生きることがあまりにもきつく、心を引き裂かれるようなことがあり、闘いもあり、ひどくエネルギーを消耗する——それでもこういう風にしか生きられない、という人たちがいる…。彼らが人生を終えようとするときに、心の中に最後の疾風が駆け巡るのです。終楽章は勝利だけの音楽ではない。人生を満喫した感じとも言いましょうか。第1楽章のコーダは11月のように暗澹としています。希望のない暗い終わり方です。邪悪と言ってもいい」

このゲルギエフの言葉から察せられるのは、チャイコフスキーの音楽の意味をさらに深く、限りなく読み込もうとする態度である。

マリンスキー・オーケストラの状態も、10年前よりもはるかに若返り、楽器のクオリティも向上し、別物と言っていいくらいに進化している。

今回の「チャイコフスキー・フェスティバル」で、いよいよその集大成が示されるときが来るのだ。

林田直樹 (音楽ジャーナリスト・評論家)

2019年12月5日(木)
サントリーホール

交響曲第1番 小長調 作品13
ロココの主題による変奏曲 小長調 作品33
(チェロ:アレクサンドル・ブズロフ)
交響曲第6番 小長調 作品74

12月6日(金)
東京文化会館

交響曲第2番 小長調 作品17
ヴァイオリン協奏曲 小長調 作品35
(ヴァイオリン:五嶋 龍)
交響曲第4番 小長調 作品36

12月7日(土) 昼 東京文化会館

交響曲第3番 小長調 作品29
ピアノ協奏曲第3番 変小長調 作品75 (ピアノ:セルゲイ・パシヤン)
ピアノ協奏曲第1番 変小長調 作品23 (調整中)

12月7日(土) 夜 東京文化会館

ピアノ協奏曲第2番 小長調 作品41 (ピアノ:セルゲイ・パシヤン)
交響曲第5番 小長調 作品64

主催:朝日新聞社/ジャパン・アーツ 協力:マリンスキー・オペラ友の会

2019年2月 詳細発表!

ジャパン・アーツぴあ 03-5774-3040 www.japanarts.co.jp